

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～『There is nothing worse than aggressive stupidity』～

今回の通心（信）は上記の英文です。

この言葉は、ドイツを代表する文豪であり、小説『若きウェルテルの悩み』、『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』、叙事詩『ヘルマンとドロテーア』、詩劇『ファウスト』など広い分野で重要な作品を残したゲーテの言葉です。

訳は・・・「人間の最大の罪は・・・（ ）である。」です。

（ ）には何が入りますか？・・・

・・・答えはね・・・えーっと・・・それはね・・・

「不機嫌」です。



ご機嫌でいるって、実は、奇跡を起こす大前提だからです。

未来を作る公式を僕はこう表現しました。

「未来」＝「心」(あなたの今の心の状態)×「行動」

「未来」＝「どんな心で」×「何をするか」であると。

僕らは、とにかく、何をするかばかりにフォーカスがいきがちですが、どんな大事なことでも、雑にしたら雑用になってしまうのです。

不機嫌でことに当たるということは・・・

「心」がマイナスなので、どんな「行動」をかけあわせても、結果となる「未来」は、マイナスなままなんです。

つまり、結果が出にくいのです。「未来」＝「心」×「行動」。これはスマホに例えるなら、

「未来」＝「アンテナ」(心)×「検索」(行動)になります。

どんなに検索したくても、「アンテナ」が圏外であれば、ネットワークに繋がっていないので、情報は入ってきません。

不機嫌であるということは「アンテナ」が「圏外」なんです。

上機嫌であるということは「アンテナ」が「圏内」なんです。

上機嫌は、アンテナ5本立ちです！

「アンテナ」(心)が、「圏内」(ご機嫌)であれば、他のネットワークとつながっていますから、シンク口は起き放題となります。

アンテナが、圏内か圏外かそれは人生に、天地ほどの違いを生み出すほど重要なのに・・・

僕らは自分がご機嫌でいることに価値をおいていないのです。



ひすい ことろう さんのブログより引用

例えば、親が勉強をしない子どもにイライラするのは、子どもに幸せになってほしいからなんです。だから、近所の子が勉強しなくても全然イライラしないでしょ。相手の「思い(愛)」をちゃんと見れたら、相手の不機嫌に巻き込まれにくくなります。仲間のミスに怒り心頭のときは、それだけ「彼ならやれる」って仲間を信頼していたからなんです。このままじゃダメだと、イライラしている人は・・・本当はもっとできる自分の可能性をどこかで信じているからなんです。

どうでしたか？・・・意識的に「笑顔」で、「上機嫌」で、で2学期をスタートさせませんか？

「心をプラス」にして、アンテナを「圏内」にして、**アンテナ5本立ちにして**、学習に・・・学校行事に・・・部活動に・・・県高生活に・・・学校外の活動に・・・家庭生活に・・・あなたの「**プラスの行動**」をかけ合わせてみませんか？